

令和6年度

京都府立綾部高等学校由良川キャンパス(東分校)

定時制課程

学校経営計画

(スクールマネジメントプラン)

計画段階

令和6年度 京都府立綾部高等学校(東分校定時制) 学校経営計画(スクールのマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と進路希望の実現 ・基本的な生活習慣の確立 ・基本的人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 	<p>(成果)</p> <p>◇「子どもの知的好奇心をくすぐる授業」、「高校生伝統文化体験(茶道)」などの事業を有効に活用とともに、「全校理科実験学習や合科授業」を企画運営することができた。多様な体験的な授業や外部講師を招いての授業を通じて、生徒は日頃体験することができない経験をすることができ多くの成長につながった。また、SDGsの目標達成に向けて生徒の一人ひとりが、意識を高めることができた。</p> <p>◇ICT関係については、教員のスキルアップを図り、タブレットやPC室を活用した調べ学習、生徒の意見交流等、効果的な授業展開を進めている。</p> <p>◇コミュニケーション力に課題があり中学校で学校に適應できなかった生徒についても、暖かい雰囲気の中、落ち着いて学校生活を送ることができており、進級や卒業へつなげることができた。</p> <p>◇外部機関と連携し、進路決定につなげることができた。また、卒業後の相談機関を紹介することもでき、4年生(卒業生)が、より安心して卒業することができた。</p> <p>(課題)</p> <p>◆特別な支援が必要な生徒の指導が適切にできるよう、教職員研修や教職員間の意思疎通を充実させ、教職員一人ひとりの指導力や知識を向上させるとともに、外部機関とも適切に連携をとりながら、指導や支援にあたる必要がある。</p> <p>◆保護者とのつながりをより密なものとするにより、生徒が必要とすることを共有し、家庭での協力を得やすくする。</p> <p>◆比較的活動的な生徒会であり、さらに自分たちで企画・立案や運営をできるように支援し、生徒たちの自己達成感を高めたい。</p> <p>◆中学生がより適切な志願校を決定できるように中高連携をし、より適切な情報を伝える。</p>	<p>■3Q+4Sの推進</p> <p>3Q <Quality Teacher> 教師としての資質向上 <Quality School> 教育内容の充実 <Quality Students> 未来を切り拓く人材の育成</p> <p>4S <整理><整頓><清潔><作法></p> <p>■A・G・P(Ayabe Global Program)の推進</p> <p><高い人権意識に基づく教育活動の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ●自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成 ●多様性を尊重し多様な人とつながる姿勢の育成 ●あらゆる場面で一人一人を大切に指導の実践 <p><自らの生涯を豊かにする力の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ●自らの将来に目を向け、目標に向かう挑戦や努力を支える学校づくり ●興味・関心を刺激し、課題発見や解決、探究的な学びを進める指導の実践 ●学びに向かう力や主体的に学び考える力の育成 <p><社会に通じる力の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ●礼儀、健康的な生活習慣、規範意識を身に付ける指導の実践 ●様々な学びを通じた「自己肯定感」の醸成 ●仲間とともに高め合い、協働して取り組む姿勢を応援する学校づくりの実践 <p><教育環境の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ●安心・安全に学ぶことができる教育環境の構築・整備 ●様々な課題の解決や克服に向けた家庭や地域、関係機関との積極的連携 ●1人1台学習用端末活用のための校内協力体制のさらなる強化 ●本校での学びや取組への理解の深化のための積極的広報 ●教職員の働き方改革をねらいとした業務の精選や組織づくり

分掌・教科	項目(重点目標)	具体的方策及び数値目標	評価	成果と課題
1 組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が登校したくなる魅力ある学校づくりをし、出席や授業参加へつなげる。 ・多様性を認め合える仲間作りを推進し、生徒の自己有用感・自尊感情を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に日々のあいさつや声かけをすると共に、京都府等の各種事業を活用した体験や講演を多く実施する。 ・あらゆる教育活動を通じて自分の役割を果たす、積極的に取り組む等の力をつけさせる。 		
2 教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の改善に努め、学力を向上させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務システムを効果的に運用し、教務関係文書を正確に遅滞なく作成する。 ・教科担当・学級担任に教務関連情報を確実に伝達し、職員の意思統一を行う。 ・補習などを効果的に行い、生徒個々の学力を向上させることにより、全員を卒業進級させる。 		
3 生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な学校づくりを行うために、授業規律や授業マナーの指導に重点を置く。 ・豊かな人間性を育むために、体験活動を重視した教育活動を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席を減らす為、学校行事や体験活動を充実させる教育活動を増やしていく。 ・各部・関連機関と連携しながら、問題事象等に毅然と、また丁寧な指導を行う。 ・各関係機関と連携して、薬物乱用防止学習、交通安全学習、非行防止学習等を適切に実施する。 		
4 進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路の実現に向けて、生徒個々の状況に応じた進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた進路学習を計画的に実施し、進路意識を高める。 ・4年生個々の進路希望に合わせた支援を丁寧に行い、希望進路の実現を目指す。 ・進路希望の具体化が困難な生徒に対して、関係機関と連携しながら丁寧な支援を行う。 		
5 保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な学校生活を送れるよう、自己管理能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・保護者等と協力し、要観察生徒の専門医への受診率向上に努める。 ・生徒一人ひとりに応じた適切な支援ができるよう、日々の情報共有や実態把握を行う。 ・「保健だより」を月1回発行する。 		

分掌・教科	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題
6 人権 教育部	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を高める学習を行い、生徒に人権意識を根付かせ、いじめのない学校生活を送らせる。 ・奨学金制度の周知徹底を行い、進学や就職に際しての金銭的な不安の解消に役立てる。 	・基礎学力定着のために、個に応じた指導方法の工夫改善を行い、希望進路の実現を目指す。		
		・人権意識を養うため、講演等の特設人権学習を年に2回実施する。		
		・各学年部と連携のもと、生徒への奨学金制度の周知徹底に努め、希望者には適切な支援を行う。		
7 第1 学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制課程を生活の中心にすえた基本的生活習慣を確立させる。 ・生徒一人ひとりの様子を把握し、きめ細かい生徒指導・学習指導を行う。 	・生徒の心身の状況をつかむために毎日の健康チェックの確認や声かけをし、教職員で情報交換していく。		
		・他者を認め合うクラス作りをすすめるため、自己を大切にし多様性を意識させる。		
		・定期的に面談を行い、生徒の状態を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。		
8 第2 学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒それぞれの状況を把握し、生活・学習面において自らを律して行動ができるように指導を行う。 ・家庭や学校での豊かな交流により社会性を身につけ、人間性を育成する。 	・挨拶をはじめとする毎日の対話を通して、生徒の状況を把握する。		
		・教科担当等の教員と連携を密にとり、必要に応じて生活・学習支援を行う。		
		・面談を通して、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。		
9 第3 学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席を減らす ・保護者等との連携を密にし、個々の課題を改善する。 ・生徒全員の進級及び希望進路の実現を目指す。 	・登校するのが当たり前という意識を持たせる。		
		・保護者等と共に指導にあたる。		
		・定期的に面談を行い、生徒の状態を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。		
10 第4 学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒全員の卒業及び希望進路の実現を目指す。 ・基本的生活習慣を確立させる。 ・生徒一人ひとりの様子を把握し、他教員と共有し、全体を通してきめの細かい学習指導を行う。 	・進路決定に向けて、生徒同士で高め合えるようなHR経営をする。		
		・定期的に面談を行い、生徒の状態を把握し、自立に向けた生活習慣・進路指導を適宜実施する。		
		・自己を大切にし、他者を認め合えるクラスづくりをすすめる。		
11 国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活において必要な国語について、その特質を理解させ適切に使用できるよう指導する。 ・言語活動を通じて、生徒の思考力や想像力、表現力を育成する。 	・語彙力向上のための学習の機会を週に1回以上確保する。		
		・生徒の理解促進のために毎回の授業内容を振り返る時間を確保する。		
		・単元のまとめとして、自分の考え・思いを表現する時間を単元ごとに確保する。		
12 地歴 公民科	<ul style="list-style-type: none"> ・地歴・公民の基本的な事項を理解し、知識として定着させる。 ・社会に出た時に必要な知識や能力、特に自分の意見や考えを持ち、それを相手にわかりやすく伝える能力を身に付けさせる。 	・生徒の実情に応じた教材を精選する。		
		・パワーポイントを利用した教材と授業プリントを用意し、授業への関心を高め、知識の定着を図る。		
		・リアルタイムのニュースを教材化し、社会への関心を持たせる。		
13 数学科	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の基礎的・基本的な知識技能を身につけ、教科書の内容を理解させる。 ・授業、テスト勉強、テストの学習の習慣を身に付けさせる。 	・授業形態や考查方法を工夫し定期考查と日々の学習を繋げる授業を実践する。		
		・特に数学に苦手意識を持つ生徒に対し、わかる授業を目標に、達成感を感じさせ、満足度を上げたい。		
		・ノートを使った学習を中心に学習習慣をつける。		
14 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事柄から理科に対する興味を持たせ、社会生活に必要な科学的知識・能力を身につけさせる。 	・理科に興味を持たせるため、演示実験や持ち込み教材・ICTを活用する。		
		・自然や日常的な事柄と学習内容を関連させるため、社会人講師の登壇や新聞等を利用する。		
		・理科における計算・知識を定着させるために、教科書以外に補助教材として、プリントを使用する。		

分掌・教科	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題
15 保健体育科	・保健、体育の授業を通して、生徒が心身ともに健康的に日々の生活を過ごすことができるための授業を展開する。 ・生涯スポーツの観点から、多くの項目を通して卒業後もスポーツに積極的に触れ合う姿勢を育成する。	・積極的に授業へ参加できるようスモールステップで活動を行っていく。		
		・保健の見方・考え方を働かせる授業を展開し、健康の保持増進に繋がる知識の定着を図る。		
		・多くのスポーツに触れ合う機会を持たせるため、1年間で7種目以上の生涯スポーツに取り組む。		
16 英語科	・日常生活の中で使われる英語に気づき、身近なものであることを実感させ、自分で学ぶことができる力を育成する。	・ICT教材を使って、英語への関心を高め、理解を深めさせる。		
		・生徒が授業内容の理解を深めるために、授業中に課題を出し、思考、判断、表現させる。		
		・生徒に知識を定着させるため、単語テスト等を実施して理解を深めさせる。		
17 芸術科	・基礎技術を充実させ、自ら表現する意欲を育てる。	・授業規律を大切にす。		
		・個別指導を重視し、完成度を高める姿勢を身につけさせる。		
		・基礎から高度な内容まで表現できる幅を広げさせるため、技術差のある生徒が取り組める課題を取り入れる。		
18 家庭科	・自立する力を育成する。	・身近な事柄を教材として選び、生徒の興味・関心を引き出すよう工夫する。		
		・体験的な学習課題を多く設定する。		
19 情報科	・現代社会における必須アイテムであるパーソナルコンピュータの基本的な操作を習得させる。	・タイピングの練習に力を入れ、文書作成ソフトによる反復練習を行い、文書入力量を重視して評価する。		
		・プログラミングに取り組みさまざまな事柄の行動順序を身につけさせる。		

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善 の方向性	
-----------------------	--